

R7年9月放送分
**「米軍再編に係る訓練移転（ATR：Aviation
Training Relocation）について」**
（日本の防衛Q&A）
（自衛隊百科）

R7.8.26 収録

【パーソナリティー】

本日は、「米軍再編に係る訓練移転について」をテーマに、東北防衛局から職員の方にお越しいただきました。よろしくお願いします。

【鹿嶋】

よろしくお願いします。

【パーソナリティー】

はじめに自己紹介をお願いします。

【鹿嶋】

はい、地方調整課の鹿嶋です。秋田県、なまはげの里男鹿市の出身です。地方調整課では米軍や自治体との連絡調整などを担当しています。よろしくお願いします。

【パーソナリティー】

こちらこそ、よろしくお願いします。それでは、今回のテーマの米軍再編に係る訓練移転について、お話をお願いします。

【鹿嶋】

はい。在日米軍は日本国内で色々な訓練を行っていますが、その中でも「米軍再編に係る訓練移転」というものがあります。どのような訓練かと言いますと、在日米軍の航空機が、一定期間、自衛隊施設に移動して、自衛隊と共同訓練を行います。英語で言うと Aviation Training Relocation、略して ATR と呼ばれています。

【パーソナリティー】

在日米軍の航空機が自衛隊施設に移動して、自衛隊と一緒に訓練を

するということですが、目的は何ですか？

【鹿嶋】

はい。ATR の目的は二つあります。1 つは日米間の相互運用性を向上させること、もう 1 つは在日米軍飛行場の周辺地域における訓練活動の影響を軽減することです。

平成 18 年 5 月に、日米安全保障協議委員会、いわゆる「2 + 2」において取りまとめられた、「再編実施のための日米ロードマップ」に基づいて行われています。

【パーソナリティー】

少し難しい言葉が出てきましたが、もう少し詳しく教えてください。

【鹿嶋】

はい。まず 1 つ目の目的、「日米間の相互運用性を向上させること」についてですが、「日米間の相互運用性」とは、自衛隊と米軍が、戦術、装備、各種作業の実施要領、情報、通信などに関して、共通性をもち、双方が利用できるようにすることです。日本の有事の際には、日米安全保障条約に基づいて、自衛隊と米軍が共同で対処することになりますので、迅速で効率的な協力を行うために、日米間の相互運用性がとても重要になります。ATR で米軍と自衛隊と一緒に訓練をすることで、この相互運用性が向上します。

2 つ目の目的は、「在日米軍飛行場の周辺地域における訓練活動の影響を軽減すること」です。「訓練活動の影響」、これは主に航空機騒音ですが、米軍飛行場の周辺住民の方々にとって負担となっている航空機騒音などを減らすために、米軍の航空機が一定期間、別のところに移転して訓練するということです。

【パーソナリティー】

なるほど、具体的には、航空機はどこからどこへ移転しているのですか？

【鹿嶋】

まず、訓練の移転元となるのは、青森県の三沢基地、山口県の岩国基地、そして沖縄県の嘉手納基地です。それぞれの基地から航空機が

訓練移転を行っています。

移転してどこで訓練をしているのかと言いますと、北海道の千歳基地、青森県の三沢基地、茨城県の百里基地、石川県の小松基地、福岡県の築城基地、そして宮崎県の新田原基地です。

更に、平成23年にはグアムが、令和5年にはアメリカのアラスカ州が移転先に加わりました。

【パーソナリティー】

三沢基地は、訓練移転の移転元であると同時に、移転先でもあるんですね。

【鹿嶋】

そうなんです。三沢基地は、米軍の飛行場であると同時に、自衛隊基地でもあるため、移転元にも移転先にもなります。

私は東北防衛局で、三沢基地のATRを担当しています。令和6年度は、三沢基地のF-16戦闘機などが、アラスカやグアムに移転してATRを行いました。

【パーソナリティー】

どれくらいの期間、訓練で移転しているものですか？

【鹿嶋】

令和6年度の実績では、三沢基地からほかの基地への訓練移転は4回行われ、移転先において、合計100日間の訓練が行われました。

【パーソナリティー】

意外と長期間ですね。その期間中は、三沢基地周辺の航空機騒音など、地域への負担が軽減されていたということですか？

【鹿嶋】

地域への負担は訓練日数だけで測れるものではありませんが、少なくともその期間は三沢基地での訓練が減ったということになります。

逆に、三沢基地は、他の米軍基地からの訓練移転先にもなっており、令和6年度の実績では、12月2日から12月13日の12日間、山口県の米軍岩国基地からFA-18戦闘機12機が自衛隊三沢基地に移転

して ATR を行いました。

令和 6 年度においては、三沢基地での訓練日数は 12 日増えて、100 日減っているということになり、訓練移転の目的の一つである、訓練活動の影響の軽減を果たせたものと考えています。

【パーソナリティー】

なるほど。三沢基地で ATR が実施される時、東北防衛局はどのような仕事をするのですか？

【鹿嶋】

まず、ATR の公表に合わせて、関係自治体へ訓練の計画についてご説明し、ご理解を得るところから始まります。

三沢基地での ATR は平成 19 年から行われていますが、ATR 期間中は、ほかの基地の航空機を受け入れることとなりますので、やはり地元住民の方は不安に思われていると思います。ありがたいことに、現在に至るまで受け入れていただいておりますが、毎回、航空機騒音の軽減、安全対策の実施、隊員の綱紀肅正などの要請を地元自治体から受けております。これらの要請については、地元の方々の声として、東北防衛局から米軍に対ししっかりと伝えていきます。

【パーソナリティー】

訓練期間中は、どのような対応をされているのですか？

【鹿嶋】

訓練期間中は、三沢基地の近くにある三沢防衛事務所の中に現地連絡本部を設置しています。去年は、東北防衛局職員と、三沢防衛事務所の職員が、現地連絡本部班員として勤務しました。米軍・自衛隊との連絡調整などを行い、訓練の開始時間や終了時間等を関係自治体に毎日情報提供を行いました。

【パーソナリティー】

現地連絡本部では、印象に残る出来事などはありましたか？

【鹿嶋】

そうですね、正直、仕事よりも食事が記憶に残っているかもしれま

せん。私は昨年初めて ATR の仕事を担当して、ATR 期間中は 24 時間態勢で対応するために、住んでいる仙台を離れて三沢に泊まって仕事をしていたのですが、食べ物がとてもおいしかったです。特に三沢名物のチーズロールがお気に入りです。

それから、普段は三沢の米軍と仕事をしているのですが、ATR では、岩国基地から来た米軍と仕事をする事になったのが新鮮でした。最初は緊張しましたが、皆さん気さくな方で、先ほどお話しした地元自治体からの要請内容を伝えた際にもしっかりと受け止めてくれました。

【パーソナリティー】

東北防衛局は、米軍と地元自治体の間に立って、架け橋のようなお仕事をされているんですね。

【鹿嶋】

そうですね、そのような仕事ができたと考えた時はやりがいを感じます。地元自治体の皆さまには、いつもご理解とご協力をいただき、大変感謝しております。

東北防衛局では、今後とも、訓練についての迅速な情報提供と丁寧なご説明を行い、地元の皆さまの声を米軍に伝えていくことを心がけていきたいと考えております。

【パーソナリティー】

本日は、米軍再編に係る訓練移転について、鹿嶋さんにお話をお聞きしました。ありがとうございました。

【鹿嶋】

ありがとうございました。

【パーソナリティー】

このコーナーでは、よりよい内容にしていくため、ラジオをお聞きの皆さまからご意見・ご感想を募集しております。お聞きのコミュニティ放送局までご連絡ください。